

第8号

法遍寺 から大切な 皆様へ

2017年10月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏育成の年

法遍寺・天晴寺支部年間方針

青年部育成

全員で折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏完遂

罪障消滅

② 御講参詣で人材育成

幸福境涯

③ 講中みんなで支部総登山

福德倍増

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)



2017年9月10日 御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について

住職 近藤道正

法遍寺は静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山と仰ぎ、日蓮大聖人様の763年に及ぶ正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊を信受し、破邪顕正の折伏精神で布教活動をさせていただいております。

① 講中の皆様へ

日蓮大聖人は「身口の二業は意業より起こるなり」(御書1751頁)と仰せです。信心とは心の領域であると同時に、即、口と身によって実行されるものでなければなりません。どんな人でも成仏を遂げるためには、この身口意の三業にわたる仏道修行が肝要なのです。大聖人のもとで常随給仕をされた日興上人、日目上人の御姿にある折伏の精神も給仕を離れてはありません。折伏は三宝尊に対する最大最高の御報恩・御給仕であると同時に仏界を開く最高の修行です。仏弟子としての自覚、不動の信心が出来上がるのです。大聖人の御意に合っているか、自分を見つめ直すことから始めるのが給仕の第一歩といえましょう。

② 創価学会の皆様へ

かつて創価学会では、「この本門戒壇の大御本尊を根本として、血脈付法の歴代の御法主上人が大御本尊を御書写になり、御下付くださったのが、私達の家家に御安置申し上げている御本尊です」(大白蓮華345—36頁)と述べており、大聖人の御内証を御所持である御歴代上人を通じて本門戒壇の大御本尊に帰依するという、本宗本来の正しい本尊観をもっていました。ところが現在は経本の観念文から御歴代上人に対する報恩謝徳の御文を削除し、ついに大聖人出世の本懐である本門戒壇の大御本尊を帰依しないことを宣言したのです。源を離れてその流れはなく罪障をひたすらに積んでいることを知って下さい。

③ 正しい宗教に関心のある皆様へ

涅槃経というお経の中に、「正しい宗教を持たない人は、仏という人生における根本の師を知らず、もっとも慈愛の深い親を持たず、仏の救済もなく護られることもなく、生きる目的を知らず、功德という財宝に恵まれない貧しい人である」と説かれています。生きていく上で信念や努力が必要なことは当たり前です。しかし、生苦・老苦・病苦・死苦は必ず直面する苦悩であることは間違いありません。正しい信仰には、生命の本源にある業と煩惱の姿を清浄とし、いかなる障魔にも負けない不屈の闘士と、苦難に打ち勝つ力が養われます。その信仰は、ここ日蓮正宗の真実の仏法にあります。